

# 国際社会の中の 日本ー世界との関係・日本の現状ー

ニュースでは連日のように、ポピュリズムの台頭による民主主義の危機、国家の枠組みでは捉えきれない紛争やテロリズム、世界にまたがるグローバルな経済活動や人の移動がもたらす摩擦などが伝えられています。ますます混沌とする国際社会の中で、日本は国際的な課題を解決するためにどのように対応し、どのような役割を果たしてきたのでしょうか。そして、これからの日本には、何が求められているのでしょうか。今回は、「国際社会の中の日本」と題して、世界との関係・日本の現状について、さまざまな分野からアプローチし、考えてみたいと思います。



第1回

11月22日 水

安里 和晃  
文学研究科 准教授

## 介護の担い手をめぐる グローバルな政策と実態

高齢者ケアの担い手の確保はグローバルな問題となっています。これまで海外人材の導入に反対してきた日本政府も受け入れをはじめました。ところが、グローバルな人材獲得競争によるゆがみが生じており、制度の調整が必要となっており、その内容等について紹介します。



第2回

11月28日 火

久野 秀二  
経済学研究科 教授

## 世界と日本の食料・農業

世界を震撼させた食料価格危機から10年が経過しました。その後も断続的に訪れた食料高騰に対して、国際社会はどのように対応してきたのでしょうか。基本的な人権の根幹であるべき「適切な食料へのアクセス」は、これまでも政治と経済の道具にされてきました。そのなかで日本の食料と農業が置かれている状況、今後進むべき方向性について議論したいと思います。



第3回

12月5日 火

鈴木 基史  
公共政策連携大学院 教授

## 国際貿易と国際政治の交錯

貿易には国々の市場を架橋しながら国際協調を育む働きがあるといわれます。しかし、貿易の推進を目的とした自由貿易協定(FTA)は、政治と強く結びつき、国家間対立をも発生させています。こうしたなかで、日本が関わる環太平洋経済連携協定(TPP)などのFTA協定にはどんな意味があり、日本はFTA政策をどのように進めるべきでしょうか。



第4回

12月12日 火

浅田 正彦  
法学研究科 教授

## 核軍縮と日本

北朝鮮の核開発が続く中、今年、国連で核兵器禁止条約が採択されました。日本は唯一の被爆国として核軍縮を推進しつつ、同時にアメリカの核の傘の下にある国として核兵器禁止条約には消極的な態度をとっています。日本はどうすべきなのでしょう。

主催 京都大学  
講演時間 各回 18時30分〜20時

参加費無料

### 開催場所「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階(京都大学 東京オフィスのすぐ隣)



#### 申し込み方法

[ お申し込みはWEBまたはFAXで ]

京都大学ホームページからWEBでお申し込みいただくか、申込用紙をダウンロードしFAXでお申し込みください。各回定員120名、締め切りは11月10日(金)です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、申し込み多数の場合は、抽選となります。詳しくはホームページをご覧ください。



スマートフォン・携帯電話・タブレット端末から上記QRコードを読み取り、京都大学のホームページにアクセスください。

問い合わせ先

京都大学東京オフィス 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階

TEL: 03-5252-7070 FAX: 03-5252-7075 E-mail: t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office